

# 白十字ホーム家族会の成り立ち

## ～ホームとの協働とピアカウンセリング機能～

### 1. 家族会の発足

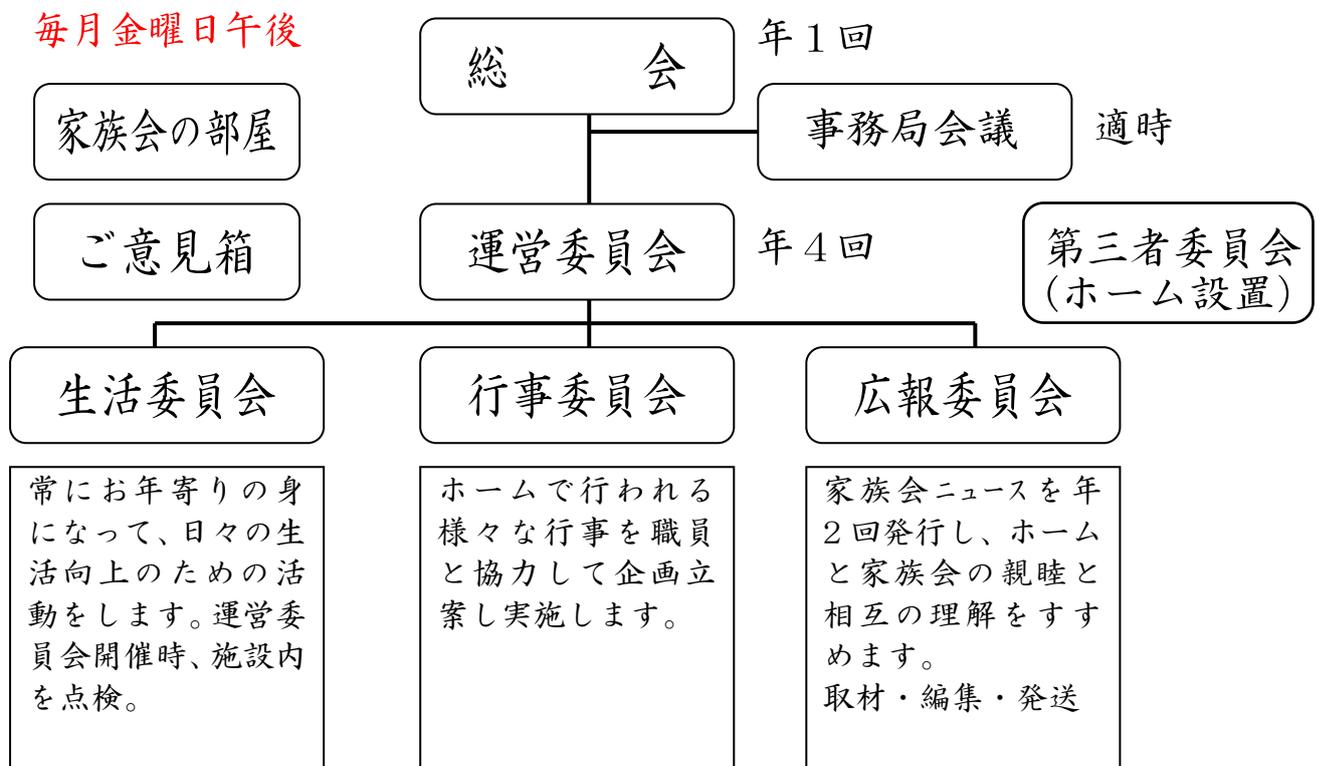
白十字ホーム家族会は昭和51年9月に発足しました。発足の発端は、お年寄りの爪が「鷹の爪」状態になっていても、家族が職員に爪切りを頼みづらいといったことでした。当時、老人ホームに自分の親を入所させるということに、世間の理解も低く、家族は負い目を感じていました。それだけに、家族が希望を言ったり、問題を指摘することは難しいことでした。またそういった問題の背景には、職員個人や施設だけではなく、制度の不備や問題点も大きな要因となっていて、個人ではどうにもならないところでした。そこで家族の有志が声を掛け合って家族会を結成し、日頃から感じている希望や問題点を個人ではなく家族会として、白十字ホームに要望していく活動を積極的に進めました。

### 2. 家族会の目的

白十字ホーム家族会は、ホームを利用しているお年寄りが安心して気持ちよく生活できるように、お年寄りの立場に立って、ホームと協力しながら、ケアの質をよりよくするための活動を目的としました。

### 3. 家族会活動と組織

3つの委員会を活用し、家族会としての意見を施設の運営やサービスに反映していけるよう取り組む。



### ホームとの共同・共催行事

- ・新年会
- ・春と秋のガーデンパーティー
- ・納涼大会
- ・敬老の日
- ・市民文化祭

#### 4、家族同士を繋ぐ役割とピアカウンセリング機能

- ・家族懇談会 新年会・敬老の日の祝膳の後に開催。(年2回)  
家族相互の交流にとどまらず、ホームに関わる考え方、状況や実情などについて認識や理解を深めるために、ホーム職員から、実際に行われているケアの具体的な内容についてのお話。家族からの要望等意見交換。
- ・各行事ごとにお手伝いを募って、同じ活動を通しての交流。
- ・今年度は「試食会」開催予定。家族同士が親しくなれる機会を増やす。
- ・今年度から研修費を予算化し勉強会・研修等に積極的に参加  
利用者の立場から発言や行動することは、サービスを利用する当事者として、より良い制度に改善し、安心して利用できる状況をつくるために重要なことです。介護保険制度をはじめ、高齢者を取り巻く施策についても強い関心を持ち、他の施設や福祉サービスを利用している方々とも、連絡、情報交換、協力連携を拡げてゆく。
- ・「ご意見箱」の取り組み (玄関 風除室に設置)  
家族の要望やご意見を受けとめ、ホームが利用しやすく、安心してサービスが利用できる施設として質的な向上が図られるために積極的に関わる。
- ・「家族会の部屋」の活用を通して、家族としての思いなど、日頃抱えている気持ちをお互いに聴き合う。(ピアカウンセリング) さらに、役員が家族の立場で気持ちや要望を直接受け止めいく。

#### 家族会の部屋の風景

・在宅、病院、介護関連施設、特養とホームに行き着くまでの家族の苦しみや辛さは、同じ道を歩んできた家族しか通じ合えないものがあります。家族のお話を寄り添ってただ聴くだけでも、いつの間にか心が晴れたように笑顔になられる方もいらっしゃいます。

・「家に居たいに決まっている、ああはなりたくない、あんな施設には入りたくない。」こんな言葉を聞くと、自分の事で無いとわかっていても涙が出てきます。親戚、ご近所の方、ベテランのボランティアさん、看護師さんや、ヘルパーさん、何の気無しに言った言葉に傷つきます。

・「いつも元気で楽しそうですね」施設に家族を預けて楽をしていると言われた時。心の中では大泣きしています。

#### 5、地域との交流活動の協力

特養は、単に「介護」を提供するだけの施設ではありません。大多数のお年寄りが終生「生活」するための施設です。お年寄りが暮らす町の一員として、地域のみなさんと共に「いきいき」と安心して生活できるために、家族会活動を通じて、地域活動を大切にします。

- ・地域の方も参加するホームの行事や活動  
納涼大会・クラブ活動
- ・市民文化祭、市民産業祭の協力
- ・地域の子どもたちや住民によるホームへのボランティア活動への協力  
(年間延べ5000人以上にのぼる地域を中心としたボランティア皆さんに支えられている)

## 6、これからの家族会

－気軽に誰でもが参加できる家族会へ－

家族会発足から34年が経過され、お年寄りを取り巻く社会も大きく変動しています。超高齢社会・老々介護・長い不況と生活不安。介護保険導入と様々な改定(改悪?)。家族会活動も活発な時期、そうではない時期。利用者家族の変遷も大きく様々な問題が生じてきました。

・役員のみなり手がいない

家族会の特徴として利用者の方が亡くなった後も、家族会OBとして残って活動して下さる家族も多いことです。しかしながら新しい役員のみなり手がなかなか出ない状態で、運営委員30名中17名がOBです。現在入所家族の役員は殆どの方が仕事に就いているため委員会等の参加が難しく、開催日時等がこれからの課題となっています。

(夜間にするとOB役員も高齢化が進んでいるので難しい)

・行事のお手伝いがいない

家族の高齢化・自宅にも介護を必要とする家族がいる・仕事がある等、年々家族の行事へのお手伝いが減ってきています。今まで家族会が担ってきた行事の担当部門を縮小し、どの様にしたら職員やボランティアさんに協力していただけるかが課題です。

・利用者や家族の要望が反映されない

OB役員が多いため、現状の「声」がとどかない。

・会費が負担となっている家族への思いやり

家族会は任意加入(利用者 175名、OB 17名。会費年間6000円・OB 3000円)です。入会申込書は無く、会費払い込み(21年度160名)がそれに変わるものです。老々介護も多くなり生活を切り詰めての会費支払いは厳しい方もいらっしゃいます。臨機応変に対処していく必要があります。

### 解決に向けて

・家族が気軽に参加できる機会を増やす

試食会 ホーム喫茶の充実

・家族が参加しやすい日時の設定

・家族自身も考える、これからの福祉・医療・介護の勉強会。

・「食」が中心の行事活動を五感(見る・聞く・かぐ・味あう・触れる)で感じる内容にし、外部の社会資源を活用で家族のお手伝いの負担を減らす。

・家族会活動の理解を広める。

2010年9月22日

※協働 同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと

※ピアカウンセリング 同じ背景を持つ人同士が対等な立場で話を聞き合う。